

| | | | |
|-----------|---|------|---|
| 講義名 | 教養特講Ⅰ（成功者の条件） | | |
| 科目区分 | 教養特講 | | |
| 担当教員 | 雄井 将夫 | | |
| 開講期・曜日・時限 | 前期 火曜日 3時限 | 授業形態 | |
| | 2020年度 人間社会学部 人間健康学科／2020年度 人間社会学部 観光学科／2020年度 人間社会学部 人間社会学科／2020年度 経済学部 経済情報学科／2020年度 経済学部 経済学科／2020年度 商学部 マーケティング学科／2020年度 商学部 経営学科 | | |
| 履修開始年次 | 1年生 | 単位数 | 2 |
| | | 備考 | |

| |
|---|
| <p>主題と概要</p> <p>本講座は、社会で成功するとはどういうことなのか。誰もが学業を終え、成功を希み社会に放立ちます。民間企業や公共機関等の組織に所属し高い地位を得ることや自ら事業を興し成功すること、また、音楽や美術等の芸術の分野で名声を得ること等様々な成功のカタチがあります。人が成功を取るには、果たして本人の力だけでそうなるのでしょうか。人の一生は、生を受けてからそれを終えるまで、家庭での父母兄弟や学校での友人、企業の組織や住んでいる地域の人々という人間関係を基盤とする社会の中で生きています。生きているかぎり人との付き合いは続きます。この環境の中において、人が社会で成功を手に入れるためには、「何か」、「どのように必要なのか」、また「何を」、「どのように考え行動に移し実践すべきなのか」を教えます。つまり、成功者の条件とは、何かを講義します。併せて、成功の礎を築くための人間関係力、つまりコミュニケーション能力を鍛えるために、話の内容をつかみ質問をし相互理解を深めるための文脈力の強化を行います。そのために、授業の2回に1回は、文章の読解、要約記述、それに対する感想・意見を記述する機会を設け、皆さんがすでに持っている潜在的な文脈力を顕在化し、人とのコミュニケーションにおいて的確な質問や意見を言うようにします。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>到達目標</p> <p>成功に向かって、自分自身の行うべきことが明確になり、実践できるようになる。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>提出課題</p> <p>毎回、テーマに基づく演習答案及びレポート（要約及び意見・感想）を提出してもらいます。なお、提出方法は、スマートフォンのメール機能を使用します。また、文書の読解のみの授業の際には、大レポートと小レポートと2種類のレポートの提出を求めます。演習答案、レポートの提出の際に、メール文書はべた打ちにて、メールの先頭に、①科目名、②提出日、③学籍番号、④氏名、⑤表題、⑥演習解答：問1、問2、として解答内容が私に明確に伝わるように文書を作成すること。また、レポートの場合も同様に、①から④までは同様に、⑤については、「まとめ」「感想・意見」を「まとめ」そして「感想・意見」それぞれ（鍵括弧「」を付き）とし、指定された文字数で文書を作成すること。演習答案、レポートのそれぞれの文書作成が終わりましたら、私のメールアドレスまで、講義日当日午後5時までには必着するよう送付すること。当日午後5時までに解答メールが着いていない場合は、欠席とみなします。なお、レポートの文字数については、以下です。大レポート：「まとめ」⇒440字～480字、「感想・意見」⇒220字～240字。小レポート：「まとめ」⇒260字～280字、「感想・意見」⇒200字～220字。送付先メールアドレス：Masao Usui@red-umds.ac.jp</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック</p> <p>講義毎に、前回分講義の際の演習、小レポートの全般的な講評を文書で行います。授業が、文章の読解、要約感想・意見のみの場合も、同様に全般的な総評を行います。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>評価の基準</p> <p>評価は、演習答案、大レポート、小レポートの提出内容から評価します。講義に欠席しないよう心掛けてください。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>履修にあたっての注意・助言他</p> <p>講義は、積み上げ繰り返し式の形をとりますので、欠席しんどキツアップが難しくなりますので注意して下さい。</p> |
|---|

| |
|---|
| <p>教科書</p> <p>・思考は現実化する。 ナポレオン・ヒル きこ書房 2,200 978-4-87771-051-4</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>プリント資料及び参考文献</p> <p>講義資料は、毎回配布します。</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>授業計画</p> <p>回 テーマとキーワード 1. 成功を手に入れるための要件・・・「思考は現実化する」 2. // 「成功哲学」と「ゴールデンルール」 3. 願望実現のための原動力・・・「願望実現のための6箇条」 4. // 「信念とは」 5. 潜在意識と創造的思考・・・「深層自己読得」 6. // 「知識の2つの種類」 7. 知識の活かし方・・・「想像力の2つの形」 8. // 「マスターマインド集団」 9. 目標の立て方と想像力・・・「成功の17の法則」 10. // 「成功の出発点・8つの欲求」 11. 決断力と忍耐力・・・「失敗の最大の原因」 12. // 「成功哲学と忍耐力」 13. 問題解決法・・・「ジェームス・ヤング アイデアの作り方」 14. // 「デカルトの方法序説」 15. 信念の力・・・「7つの習慣・成功には原則があった」</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>授業形態（アクティブ・ラーニング）</p> <p>ア：PBL（課題解決型学習） イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態） ウ：ディスカッション、ディベート エ：グループワーク オ：プレゼンテーション カ：実習、フィールドワーク</p> |
|--|

| |
|---|
| <p>準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間</p> <p>講義毎に、テキストの範囲を指定します。また、主な箇所をピックアップしたプリントを事前配布しますので、それらを予習として約2時間程度熟読し、まとめておいてください。また、講義終了後、演習問題に出た箇所を中心に復習として約2時間程度必ず読み返し内容を確認してください。</p> |
|---|

| |
|--|
| <p>双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述</p> <p>毎回演習、レポートを実施し、次の講義の際に、総評を文書にて行います。</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>実務経験の有無及び活用</p> <p>「実務経験あり」：私は、大学卒業後、何社か複数の組織を移ってきました。そのキャリアの中で、多くの成功者にお会いし経験談をお聞かせいただき機会がありました。その皆さまがおっしゃることは、共通して「よい友に巡り会えた。また、周りの人たちに支えられた。すべては感謝しかない」とのことです。つまり、周りの人たちに支えられるということは、本人に徳があることです。それは、本人がいつも周りの人たちを気遣い、理解しようと努めてきたからです。つまり、本人の真摯なコミュニケーションがあったからです。</p> |
|--|

| |
|--|
| <p>備考</p> <p>成功を求める学生は、講義内容において、指示のあったことを実行に移すこと。</p> |
|--|